ボロブドール・プランバナン国立史跡公園建設事業

インドネシア

▲プランバナン国立史跡公園

■事業概要

借款契約締結日	借款金額
1982年5月	28億 500万円

本事業は、インドネシア政府により策定されたボロブドール・プランバナン国立史跡公園開発整備計画のうち、公園地区整備事業に係わるものであり、中部ジャワ地方のジョグジャカルタ市近郊に位置する宗教的文化遺産(注)である「ボロブドール寺院」と「プランバナン寺院」の保全を行い、併せて、観光資源としての価値を高めることを目的として、両寺院を中心に各々公園を建設しました。具体的には、ボロブドール、プランバナンでそれぞれ86ha、80haの公園造成及び出土品を陳列する考古学博物館の建設、さらにはプランバナンにおいては観光施設としてラーマーヤナ劇場等を建設しました。

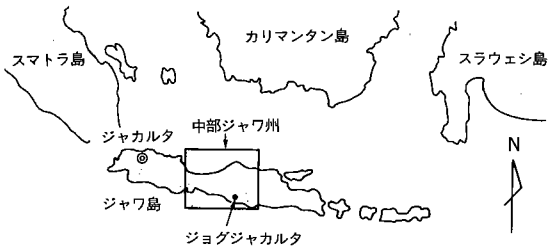
OECFは、上記公園の造成及び諸施設建設、並びにコンサルティング・サービス費用を対象として借款を供与しました。

(注)両寺院は、「インドネシアの京都」と呼ばれる古都ジョグジャカルタ市近郊に位置しています。ジョグジャカルタを中心とする中部ジャワ地方では、8世紀頃にシャイレンドラ王国（仏教国）及びマタラム王国（ヒンズー教国）が相前後して隆盛を極めたことにより、ジャワ文化も黄金時代を迎えました。この頃に建造されたと言われている両寺院は、その景観並びに彫像の素晴らしさから、文化的、芸術的に高く評価されています。更には、両寺院とも近接した場所に、しかも同時期に建造されているにもかかわらず、ボロブドールは仏教寺院、プランバナンについてはヒンズー寺院と異なる宗教であること、また、建立者が未だ解明されていないこと等の謎が多いことから考古学上重要であり、カンボジアのアンコールワット等と並び、貴重な遺産であるとされています。

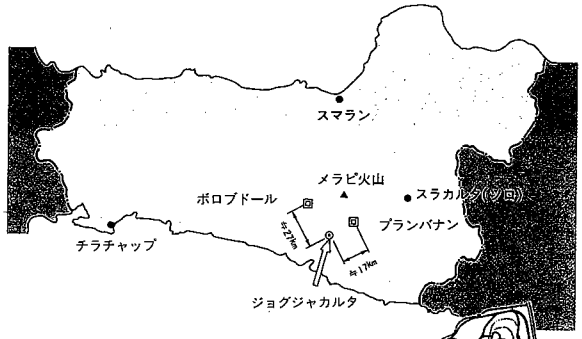
■事業実施に係わる評価

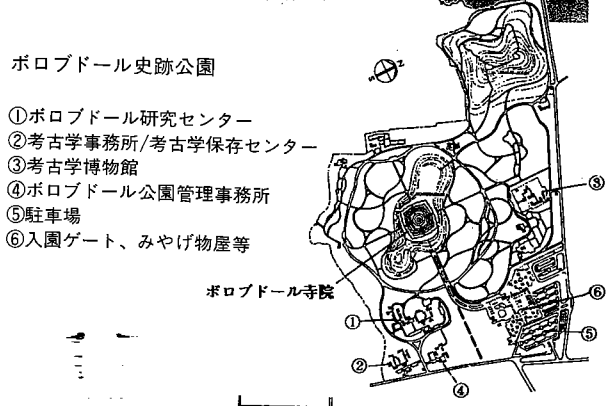
本事業の実施機関は、本公園の建設管理のため政府の全額出資によって1980年に設立されたボロブドール・プランバナン公園公社です。また、本事業には関係省庁が多いため、同公社を管轄する観光郵電省の観光総局長を委員長とし、教育文化省、内務省、大蔵省各省のメンバーからなる調整委員会が組織され、関係諸機関との調整を行いました。事業遂行にあたっては、契約手続きが遅れはしたものの、公園の造成は順調に実施され、

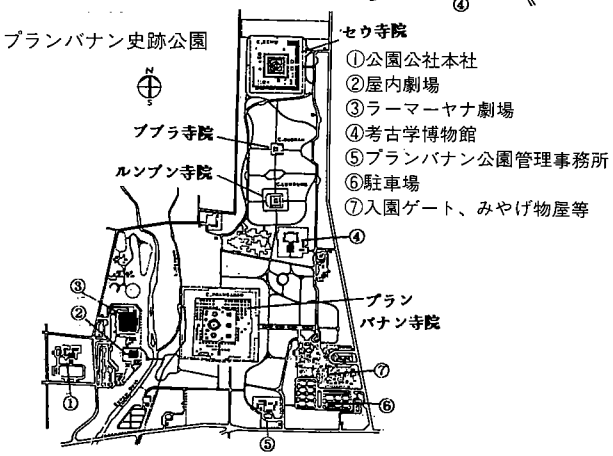
ボルブドール・プランバナン国立史跡公園建設事業



中部ジャワ州







1988年6月に完成しました。なお、文化的側面の大きな事業については、現地の歴史、伝統を踏まえて実施することが求められます。本事業においては、ジャワ建築様式の現地専門家や、両寺院の修復に携ってきた内外の専門家が計画・設計段階から参加するなど、インドネシア政府及び公園公社により出来る限りの配慮がなされています。

■完成後の運用に係わる評価

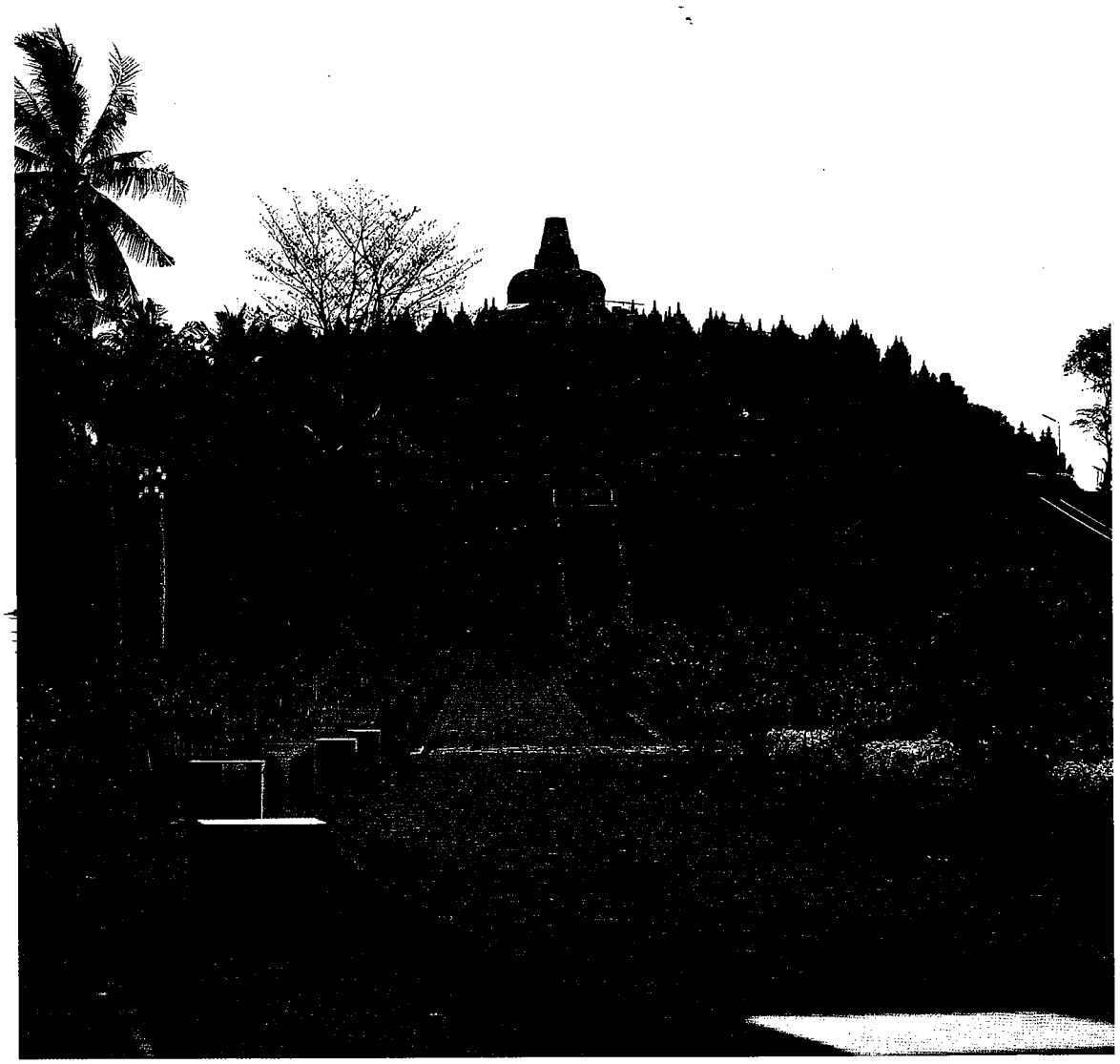
両公園の維持管理は、217名の職員からなる公園公社が担当していますが、遺跡及び出土品については、従来通り教育文化省が管理しています。

プラバナン史跡公園については、インドネシアの民俗芸能を上演するラーマーヤナ劇場、屋内劇場が比較的利用されていることもあり、公園完成後の入園者は増加しています。一方、ボロブドール史跡公園については、公園完成前から既に100万人を越える見学者があったこともあり、入園者数は概ね横這いとなっています。

■事業効果

本事業の目的である歴史的、文化的遺産の保全については、公園の整備を通じ、その目的が達成されたものと思われます。今後は、公園の適切な維持管理に努めるとともに、両史跡の考古学的研究の促進等を通じ、同国の重要な観光資源として、その文化的学術的価値を一層高めていくことが求められています。このため、OECFでは、インドネシア政府の要請に基づいて公園運営のより一層の改善を図るための援助効果促進業務(SAPS)を実施しました。SAPSでは、考古学博物館等公園施設の活性化を目的として、公園公社のマネージメントに係わる調査、公園運営に係わる改善計画等が検討されました。公園公社ではSAPSによって示された助言を基本方針として、

現在、運営改善に取り組んでいます。

（評価時期：1990年 8 月）

▼入場ゲート付近から見たボロブドール寺院
公園の整備を通じて重要な文化遺産の保全に貢献しています。